

報道関係者各位

PRESS RELEASE 2016年8月30日

No. 2016-032-1/3

## アジアの未来は、世界の未来 ～共に考えるプラットフォームをつくる アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP) 今年も9月から始動、各国を代表する専門家8人が参加



国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターと国際文化会館は、アジア諸国のさまざまな分野で活躍する専門家を毎秋日本に招へいする滞在型フェローシップ、「アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)」を実施しています。19回目を迎える今年も、ジャーナリストやNPO代表、政治学やイスラム教の専門家など、個性豊かな8名のフェローが東京に参集し、9月5日(月)から10月28日(金)まで日本に滞在します。

滞日中は、総合テーマ「アジアのコモンズを求めて～共有できるビジョンの創造」のもと、国際文化会館を拠点に、グループで各種の対話事業や地方視察に参加し、日本の専門家、オピニオン・リーダー、一般市民など国内各層と広く交流しながら、現代社会が直面する多様な課題について、アジアの目線で対話と議論を重ねます。国、信条、職業を超えてアジアの未来について共に考える—ALFPはそんな人々のプラットフォームとなることを目指しています。つきましては、ALFPフェローの日本での活動について、ぜひ貴媒体にてご紹介頂けますよう、よろしく願いいたします。個別のフェローへの取材も受け付けておりますので、ご検討いただけますと幸いです。

■滞在期間: 2016年9月5日(月)～10月28日(金)

■参加者情報: ※プロフィールは次頁参考

アヤン・ウトリザ・ヤキン(インドネシア) 国立イスラム大学ジャカルタ校 講師  
/ナフダトゥル・ウラマー中央指導部モスク対策 副議長

クリセルダ・ヤベス(フィリピン) ライター、フリージャーナリスト

サロージ・シーサイ(タイ) ASEAN事務局 プログラム・コーディネーター

ファン・ゴック・ジエム・ハン(ベトナム) レインボー・メディア&エンターテインメント CEO

李泰鎬(イ・テホ)(韓国) 参与連帯(PSPD)政策委員会 委員長

クマール・スンダラム(インド) 核軍縮平和連合(CNDP)上級研究員

アムラン・ホセイン(バングラデシュ) ダッカ大学政治学部 准教授

藤岡恵美子(日本) NPO 法人ふくしま地球市民発信所 事務局長

■2か月の活動概要(予定) ※活動の詳細はお問い合わせください。

9月5日(月) プログラム開始

9月～10月 各種対話・意見交換、合宿会議(9/11-9/12 於:葉山)、地方視察(9/26-9/30、沖縄)、  
公開セミナー(10/25、於:国際文化会館)等

10月28日(金) プログラム終了

●ALFPに関するお問い合わせ: 国際交流基金アジアセンター文化事業第2チーム(担当:八木、佐藤)

Tel: 03-5369-6025 Fax: 03-5369-6141 E-mail: Kazumi\_Yagi@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: 国際交流基金コミュニケーションセンター(担当:川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

## 2016 年度ALFP参加者プロフィール

### アヤン・ウトリザ・ヤキン(Ayang Utriza Yakin/インドネシア)



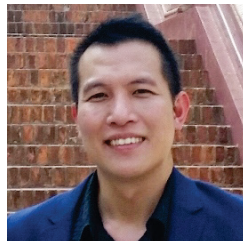
国立イスラム大学ジャカルタ校でイスラム法の学士号を取得後、カイロのアル＝アズハル大学でイスラム法を学ぶ。フランス国立社会科学高等研究院で歴史と哲学を専攻し、修士号と博士号を取得。オックスフォード大学イスラム研究センターやハーバード大学法科大学院イスラム法研究プログラムの客員研究員を経て、現在は国立イスラム大学法学・シャリア学部で教鞭をとるかたわら、同大学イスラム社会研究所の研究員も務める。宗教多元主義に基づく宗教間対話、また、イスラムの教えに深く根付く普遍的価値である人権尊重の重要性を説くとともに、相互理解の基盤となる知的リーダーによる思考プロセスの共有の必要性も訴える。インドネシア最大のイスラム組織「ナフダトゥル・ウラマー (NU)」中央指導部モスク対策副議長。バンテン州の文化財専門チームやジャカルタ首都特別州の歴史専門チームの一員として、ジャワの文化や歴史にも関わる。

### クリセルダ・ヤベス(Criselda Yabes/フィリピン)



ミンダナオにおける軍事や武力紛争に関するテーマを中心に執筆。40 年以上内戦が続いたミンダナオに再び平和をもたらそうと奮闘するフィリピン軍兵士たちの姿を描いたノンフィクション作品 *Peace Warriors: On the Trail with Filipino Soldiers* が 2012 年にフィリピンのナショナル・ブック・アワードを受賞したほか、フィクションでも数々の賞に輝いている。また、ジャーナリストとして 30 年にわたり国内外の政治や重要事件を伝え、軍事・防衛分野では南シナ海の領有権問題を含むルポを手がけている。現場の状況を知るべく沿岸の村を多数訪問。現在はパラワン州で、海洋安全保障とエコツーリズムに関する本の出版に向けた情報収集を行う。領有権問題などで高まりつつあるアジアの緊張を、対話を通じてどう解決するか、予防外交による域内の軍拡競争の抑止、海洋資源の開発・保護に関する共通ルール作りなどに関心を寄せる。

### サロージ・シーサイ(Saroj Srisai/タイ)



これまでタイ政府や国際機関の職員として、地球温暖化の緩和策と適応策、災害リスク軽減・管理、環境教育などの分野で、持続可能な開発に関わる課題解決に向けて尽力してきた。現在はジャカルタの ASEAN 事務局、および ASEAN 防災人道支援調整センターで、災害管理や環境問題に取り組む。母国タイの災害対策や人道支援体制の強化の必要性を指摘するとともに、日本に根付く防災文化や防災教育に注目している。自然災害、生物多様性の喪失、野生動物の密輸など、環境分野の課題が山積する ASEAN 域内において、国際社会や各国の政策決定者たちと市民社会を結びつけることで、問題解決の一端を担いたいと考えている。また、自身の仕事やプロジェクトにおいてジェンダーの平等性を積極的に推進している。

### ファン・ゴック・ジエム・ハン(Phan Ngoc Diem Han/ベトナム)



ホーチミン市にあるフォンナム・カルチュラル・コーポレーションをはじめ、さまざまな企業のマーケティング部門で 10 年にわたり経験を積むとともに、全国紙、ビジネス誌、スポーツ・文化紙に 100 本以上の記事を執筆。2014 年にメディア企業を立ち上げ、テレビ番組や歴史ドキュメンタリーの共同制作を行いながら、作家や脚本家やエッセイストとしても、若者を含め幅広い層に影響を及ぼしている。公式の歴史観にとらわれることなく、独自の視点から近代史を捉えたドキュメンタリーを制作するなど、ベトナムのメディアとしては斬新な創作活動を行っている。2014 年に *Doi Mat Cua Trai Tim* (心の目、Today TV) がベスト・TVドラマ・アワードを受賞。貧富の格差が残るベトナムで、あるべき発展や成長の形を模索している。

### 李泰鏞(イ・テホ)(Lee Taeho/韓国)



韓国において長年にわたり市民活動家として活躍。1995 年、韓国で最も影響力のある NGO のひとつである参与連帯(PSPD)に加わり、2011 年から 16 年には事務局長として、経済的公正、市民的・政治的権利、平和と軍縮など PSPD の主要な活動を牽引してきた。汚職防止、政治改革、表現の自由、社会福祉改革、反 FTA(自由貿易協定)、反戦、武力衝突の平和的解決などに関するキャンペーンやプロジェクトにも関わる。1991 年にソウル大学校で西洋史の学士号を取得。2008 年から 09 年までコロンビア大学東アジア研究所に客員研究員として在籍。2010 年から 16 年まで「人権と開発に関するアジアフォーラム」(FORUM-ASIA)の執行委員。日本の若者による政治活動や、福島原発事故後の人間の安全保障に絡む市民運動など、日本の平和活動に強い関心がある。

No. 2016-032-3/3

## 2016 年度ALFP参加者プロフィール

### クマール・スンダラム (Kumar Sundaram / インド)



インド国内の 200 を超える市民団体や個人が加盟する核軍縮平和連合(CNDP)の上席研究員で、活動家。特に福島原発事故後は、日本を含むさまざまな国の市民社会と連携して核なき世界を目指し、核関連の情報や対話を掲載するウェブサイト「DiaNuke.org」を開設した。国の政策や対応の違いからビジョンを共有しにくい原発や核兵器のような課題にこそ、市民社会のネットワークが必要と主張。アジアの連帯強化に向けた活動を積極的に展開すると同時に、平和と正義の実現の鍵としての民主主義に強い関心を持っている。「IndiaResists.com」や「AsiaProgressive.com」をはじめ、氏が立ち上げた市民運動や人権に関する共同制作型の Web プラットフォームやアプリケーションも注目を集めている。

### アムラン・ホセイン (Amran Hossain / バングラデシュ)



ベルゲン大学(ノルウェー)で公共政策修士号、シェフィールド大学(英国)で政治学博士号を取得。2002 年には米国国務省主催のインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラムに参加し、2011 年にはポルトガルで EU 研究員を務めた。また、数々の国際会議やセミナーでバングラデシュの地域に根差したリハビリテーション、民主化プロセス、イスラム過激主義に関する論文を発表するなど、国際経験も豊富。バングラデシュの政治・権力・汚職の問題、国際法および国際政治、社会科学方法論、研究倫理、独立戦争前後のバングラデシュ概論などに関する学術書を執筆し、論文も多数発表。現在の研究領域は、宗教的過激主義、政党制、人権、民主主義の規範など。特に世界で活発化する宗教的過激主義を懸念し、バングラデシュの分析を中心に、民主主義、暴力と平和などの観点から、アジアの将来について考察している。

### 藤岡 恵美子 (Fujioka Emiko / 日本)



福島原発事故の教訓を市民の視点で世界に伝えるというミッションのもと福島市を拠点に活動する、NPO 法人ふくしま地球市民発信所(福伝)の事務局長。2012 年に国際協力 NGO センター (JANIC) の震災タスクフォースメンバーとして福島へ赴任したのを機に移住。2014 年、JANIC の活動終了と同時に同僚と福伝を立ち上げた。南アジアで40年以上活動するNGO、シャプラニール＝市民による海外協力の会理事。2005年から09年まで同NGOのダッカ事務所長としてバングラデシュに駐在。インドを代表する女性活動家ウルワシ・プターリア氏(2000 年度ALFPフェロー)の著書 *The Other Side of Silence: Voices from the Partition of India* を翻訳し、『沈黙の向こう側～インド・パキスタン分離独立と引き裂かれた人々の声』として2002年に明石書店から出版。

### 国際交流基金アジアセンターについて

独立行政法人国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは2014年4月に設置され、ASEAN 諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、文化芸術、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアにともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。 <http://jfac.jp/>

●ALFP に関するお問い合わせ: 国際交流基金アジアセンター文化事業第2チーム(担当:八木、佐藤)

Tel: 03-5369-6025 Fax: 03-5369-6141 E-mail: Kazumi\_Yagi@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: 国際交流基金コミュニケーションセンター(担当:川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp